

第35回

うつのみやこども賞だより

平成30年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『メロンに付いていた手紙』

本田有明／著 (河出書房新社)

～読んだ本の感想より～

- メロン農家にいた夏樹が、メロンに手紙を入れたものを、同い年の海斗の家につくなんて、すごいきせきだと思いました。
- きっかけは海斗がもらったメロンについていた一通の手紙だったけど、そこから、北海道へ行ったり、夏樹とあったりする所がおもしろかった。
- ぼくも、北海道夕張市に行ってみたくなりました。メロンをもらった海斗君が手紙などを書き、送り主の夏き君との出会いが良かったです。
- 海斗が夏樹に東京に招待すると言ったことや、たがいのことを夏休みの作文に書くといったところから、友情を感じられた。
- メロンに付いていた手紙のおかげで友情が広がっていくところがおもしろくなった。



『ガラスの梨』

越水利江子／著 (ポプラ社)

- 根角のおっちゃんの動物園の動物を殺すことになってしまった話のときや、成年兄やんが戦死してしまったとき、笑生子が大人になって、キラが死んでしまったときなど、自分も悲しくなって、思わず涙が出た。
- 戦争の厳しさが一言一言から伝わってきた。あとがきを読んで、東京などの大都市だけでなく、宇都宮も空襲にあったことを知っておどろいた。
- 戦争を経験したことの無いわたしにでも、戦争のつらさが分かり、成年兄さんをうしなった笑生子の気持ちが強く文章にえがかれていて、戦争はぜったいにしてはいけないと思った。
- 平和の大切さがわかった。戦争は人を変えてしまうのだと思った。
- 長かったけれど、戦争のまっさい中の様子がよくかかれていて、よかったです。

『結び蝶物語』

横山充男／著 (あかね書房)

- 「なぜ生きるか」「どう生きるか」という二つの問いを、人間はかならず持っているということに、すごくかんしんを持ちました。
- 今と昔をいったりきたりするところがおもしろかったです。
- この本は歴史的な人物もでてきて、わくわくしました。何度生まれ変わっても、縁がある人に気づくというのがすごいなと感心しました。
- 生まれ変わっていく2人が時代をこえてそいとげていく物語に感どうした。

『リマ・トゥジュ・リマ・トゥジュ・トゥジュ』

こまつあやこ／著 (講談社)

- さやが吟行にいつてやることになったとき、気持ちを詠めばいいのは、かんたんじゃないと思いました。
- 文のかきかたが体言どめをつかっていて、私もその話の中にいるようでおもしろくて、スラスラよめました。
- 帰国子女目線という本で、ストーリーがおもしろかったです。
- 主人公のサヤが、タンカードの事や、お母さんの事を解決して行って、すいり小説みたいでおもしろかったです。
- 最初、名まえをみたとき、よくわからなかったけど、読み始めたら、本当にまほうの言葉のようなきがしました。